

# 結 果 の 概 要

## 1 出生数は増加

出生数は107万1304人で、前年の107万35人より1269人増加し、出生率（人口千対）は8.5で前年と同率となった。合計特殊出生率は1.39で前年の1.37を上回った。（第1表）

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、34歳以下の各階級及び50歳以上では前年より減少したが、35～49歳の各階級では前年に引き続き増加した。

合計特殊出生率の内訳を母の年齢（5歳階級）別にみると、15～19歳の階級では低下したが、20～49歳の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。

出生順位別にみると出生数は第1子は前年に引き続き減少したが、第2子、第3子以上は増加した。合計特殊出生率の内訳ではいずれの順位についても前年を上回った。

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数・合計特殊出生率の内訳ともに35～44歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年を上回った。（第4表、第5表）

## 2 死亡数は増加

死亡数は119万7012人で、前年の114万1865人より5万5147人増加し、死亡率（人口千対）は9.5で前年の9.1を上回った（第1表）。

悪性新生物の死亡数は35万3499人で、死亡率（人口10万対）は279.7であり、死亡総数の29.5%を占めて死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患である。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男5.4、女2.7で前年と同率となった（第1表）。

## 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△12万5708人で、前年の△7万1830人より5万3878人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.0で前年の△0.6を下回り、数・率ともに4年連続でマイナスとなった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

## 4 死産数は減少

死産数は2万6560胎で、前年の2万7005胎より445胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は24.2で、前年の24.6を下回った（第1表）。

## 5 婚姻件数は減少

婚姻件数は70万214組で、前年の70万7734組より7520組減少し、婚姻率（人口千対）は5.5で前年の5.6を下回った（第1表）。

## 6 離婚件数は減少

離婚件数は25万1378組で、7年ぶりに増加した前年の25万3353組より1975組減少した（第1表、第2表－1）。

離婚率（人口千対）は1.99で前年の2.01を下回った（第1表）。